

ID No.	2103
研究課題名	p53 変異と協調的に発がん制御に作用する分子の探索
研究代表者	中川 英刀 (理化学研究所・チームリーダー)
研究組織 受入教員 研究分担者	谷川 千津 (東京大学医科学研究所・助教) 松田 浩一 (東京大学・教授)
研究報告 1) マウスの様々な臓器を用いた発現解析を実施し、p53 によって誘導される遺伝子の臓器毎のカatalogを作成した。全 280 のサンプルについて RNA シークエンスを実施し、20,000 以上の遺伝子について発現量を測定しました。P53 は殆ど全ての臓器のがんで異常が見られますが、臓器によって遺伝子異常の頻度も異なっています。今回の結果と、ヒトがん組織での遺伝子発現の情報を組み合わせることによって、臓器毎の p53 の役割を明らかにできると考えられる。 2) p53 に異常を持つマウスに発生した 40 以上の腫瘍組織を収集し、腫瘍含有率を含めた組織学的な評価を実施した。さらに解析対象組織を選択し、RNA、DNA の抽出を実施した。今後、遺伝子解析を進めることで、p53 異常と協調的にがん化促進に働く経路の同定を目指す。 3) p53 ノックアウトマウスでは正常マウスに比べ、放射線照射に対して重症の下痢(消化管症候群)を示すことを明らかとした。また消化管症候群の原因となり複数の遺伝子を明らかとしました。現在、16srRNA 解析にてマウスの腸内細菌と p53 との関連を検討中である。	